

活動の場所

タイ タニンダーリ地方
ケーンクラチャン森林群



活動目的

ケーンクラチャン森林群（KKFC：Kaeng Krachan Forest Complex）におけるカレン族の持続可能性、そしてKKFCから得られる各種生態系サービスや遺伝子管理運営から生まれる利益の衡平な配分、当該地域の生物多様性保全を住民参加型で策定するシステムの構築と普及・定着を目的とします。

活動内容

本プロジェクトでは、愛知目標5及び11の達成と、持続可能で継続的な人材育成による生物多様性保全と環境課題解決へと寄与し、アジアに多々存在する類似ケースに対し、自然保全と保護地域内住民の生存権の両立を図る取り組みとして波及可能な先進モデル構築となることを目指し実施しています。

▶活動期間：2017年～2022年

▶カウンターパート：IUCNタイ事務所・KKFC国立公園

▶活動内容

- ① カレン族による協働型資源管理システム構築と強化
- ② カレン族の資源管理に資するローカル知・伝統知のデータベース化と次世代への継承
- ③ 前述を取りまとめた小・中学生向けの「持続可能な地域づくり教材」の開発
- ④ 「住民主導による持続可能な集落普及啓発PJT」の実施を通して核となる人材の育成と自立自走体制の構築



▶成果

- ①カレン族集落内地域資源と課題抽出、集落内ゾーニング等による管理計画実施制度設計を行い、Good Practiceを展開すべくワークショップを実施した。**WSリーダーはKKFCの現状と自然資源価値への理解が深まり、構築したシステムの自立的な継続運営への手応えが見られる。**
- ②カレン族集落の生物多様性と自然・文化資源を盛り込んだ地図と伝統知Bookを製作し、住民及び来訪者へ配布。また代表エリアへ地図看板を設置したことにより、**メディア広報等含めて最大限の波及効果を得られた。**
- ③環境教育教材開発と地域教師養成を目的に、次代を担う世代への持続可能な地域づくり教育を展開した。これにより、**養成教師の持続可能な地域づくりと参加児童の課題解決に向かう意識醸成が図られた。なおプログラムは、現在IUCNタイ事務所のホームページからタイ全域への波及を目指して発信している。**

PRしたいポイント

- IUCNタイ事務所との MoU(Memorandum of Understanding：合意協定書)締結。

IUCN本部やIUCNタイ事務所から各Official Letterを受け、世界的なパンデミック下でも連携継続と実施を確約されている。

- 2021年7月タイ国政府観光庁(TAT)は、活動地であるKKFCがタイで6番目となるユネスコの世界自然遺産に登録されたことを発表した。地域社会は依然として日常的な貧困、食料の安定的な確保等が困難な状況である。次代を担う世代によって形成される将来の脅威を防ぐために、天然資源管理の学習が極めて重要であることが再認識され、根本的な原因の解決を導き出す環境教育プログラムや実施マニュアルが持続可能な未来実現へ大変有益であると高い評価を得ている。

活動効果、今後の展開 等

今後は、2022年12月に採択された昆明モントリオール世界目標「30by30」達成のため、タイでのOECM（Other Effective area-based Conservation Measures）に関する知見やその導入・実施プロセスにおける行政、現場行政官、そして地域住民の能力が内在化し官民学が協働でOECMを推進し、アジアに健全なモデルを提示できる状況創出と展開を目指します。

○本プロジェクト活動効果_URL：<http://www.ceeakita.org/kkfc/index.html>

環境教育指導・学習マニュアル：<http://www.ceeakita.org/kkfc/file/iucn.pdf>